

# モントルー市公式訪問報告書

平成28年10月8日(土)～12日(水)

千葉市

総務局市長公室国際交流課



## 1 訪問目的・概要

本年はスイスのモントルー市と姉妹都市提携 20 周年にあたる。これを契機にこれまで青少年交流等で培ってきた友好親善を一層深めるとともに、さらなる交流促進を目指すため、モントルー市を公式訪問した。

千葉市長としては、姉妹都市提携 10 周年の平成 18 年（2006 年）10 月以来 10 年ぶりのモントルー市訪問となる。滞在中には、友好関係確認書への署名を行い、20 年間積み重ねてきた友好関係を両市互いに確認するとともに、市長が訪問する公式訪問として、モントルー市との信頼関係をさらに強固なものとし、今後も両市の発展的な関係を築いていく礎とする。

## 2 モントルー市の概要

<人口> 約2万6千人

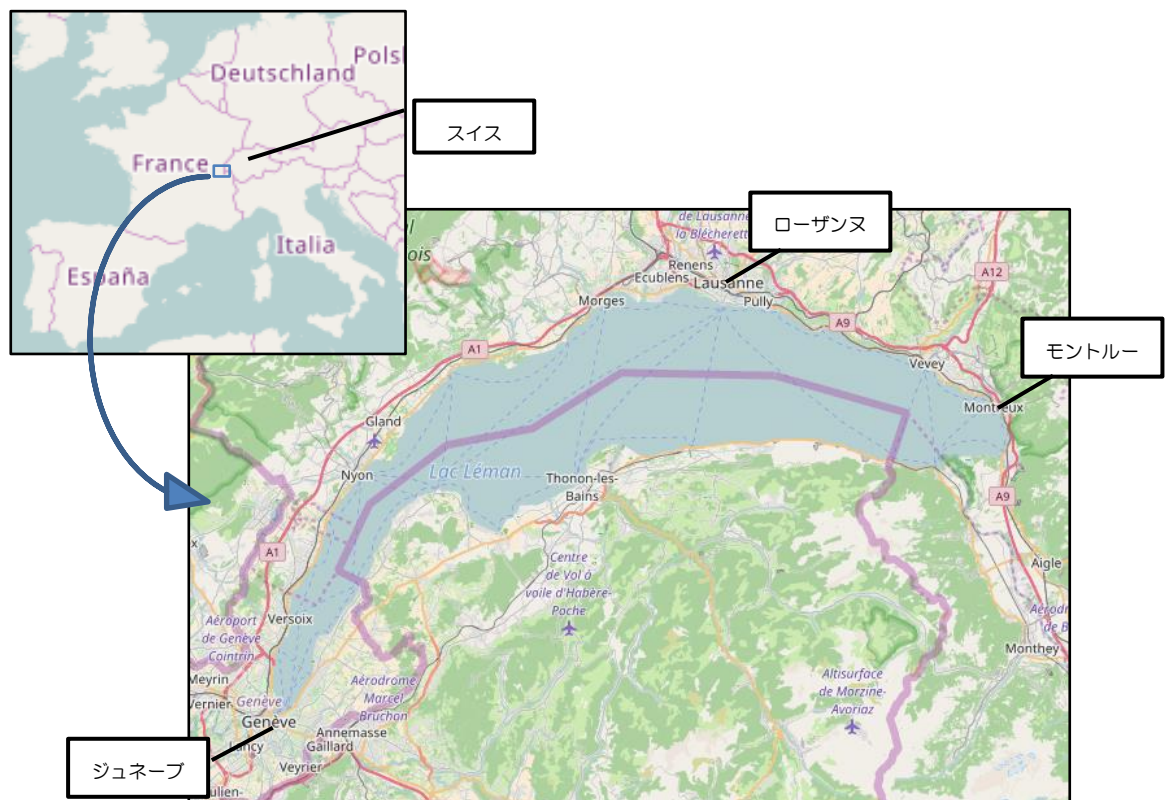
<面積> 約35平方キロメートル

<市長> ロホン・ベリー

スイス西部、レマン湖畔に位置する観光都市。周囲をアルプス連山に囲まれた風光明媚な土地柄で、比較的低位地に位置しているため、年間を通して過ごしやすい気候である。公用語はフランス語。

千葉市との姉妹都市提携は、平成 8 年（1996 年）5 月 28 日。翌平成 9 年（1997 年）から始まった青少年交流事業により毎年交互に青少年を派遣しており、これまでに 80 名以上が事業に参加している。

<モントルー市の位置>



3 訪問行程等 平成28年10月8日(土)から12日(水)まで(5日間)

月日	発着・滞在地	訪問地等	宿泊地
10/8 (土)	千葉～夜便 羽田空港 発	羽田空港～ジュネーブ空港へ	(機中泊)
10/9 (日)	ジュネーブ空港 着  ローザンヌ市  モントルー市	ジュネーブ空港～モントルー市  ローザンヌ市内等視察  ・オリンピック博物館 ・ラヴォー地区(世界遺産・ブドウ畑)  モントルー市主催歓迎レセプション 友好関係確認書署名	モントルー市
10/10 (月)	モントルー市	モントルー市関係者との意見交換 ・イヴ・コーナロ氏(モントルークリスマスマーケットディレクター) ・ロホン・ベリー氏(モントルー市長)  モントルー市内等視察 ・ヨーロッパ公園 ・シヨン城  青少年交流事業参加者と懇談	モントルー市
10/11 (火)	モントルー市  ジュネーブ市  ジュネーブ～午後便 ジュネーブ空港 発  ジュネーブ～午後便 ジュネーブ空港 発	モントルー市関係者との意見交換 ・ニコラ・パウール氏(モントルーヴヴェイ観光局コンベンションビューロー代表)  モントルー市内視察 ・2m2c  ジュネーブ市内視察 ・ソシエテ・ノーティク・ドゥ・ジュネーブ  【市長ほか1名】 ジュネーブ空港～ヒースロー空港へ  【議長ほか2名】 帰国 ジュネーブ空港～羽田空港へ	(ロンドン市)  (機中泊)
10/12 (水)	羽田空港 着	羽田空港 夜着	

#### 4 公式訪問団 5人

熊谷俊人市長、向後保雄市議会議長 ほか3名

#### 5 訪問日程の概略

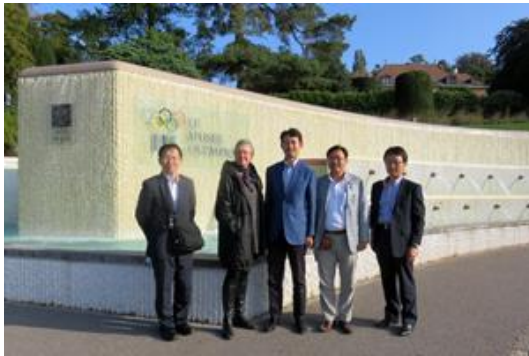
《1日目》 10月8日（土）

羽田空港より空路ジュネーブへ。

《2日目》 10月9日（日）

ジュネーブ空港着。モントルー市職員の出迎えを受ける。

空港からモントルー市に向かう途中、国際オリンピック委員会の本拠地であるローザンヌ市に立ち寄った。



【オリンピック博物館視察】

ローザンヌ市では、オリンピック博物館を視察。同博物館は、1993年開館、2013年リニューアルオープン。展示スペースは約3000平方メートル。

千葉市では、2020年にオリンピック・パラリンピックの一部競技が行われるが、約3000年前の古代オリンピックに関する展示や夏・冬の近代オリンピックにかかる展示があり、その歴史を改めて知る貴重な機会となった。



【ラヴォー地区視察】

オリンピック博物館を出発した訪問団は、ラヴォー地区を視察した。ラヴォー地区は世界遺産登録されたワインの生産地で、1,000年以上続くワインづくりの伝統を持つ。

レマン湖を臨む丘陵にブドウ畑が広がっており、その立地から、日照に恵まれ良質のブドウが収穫される。

モントルー市もブドウ畑を所有しており、「モントルー」の名を冠したワインもある。

その後、モントルー市に向けて出発し、ホテルにチェックインしたのち、モントルー市のベリー市長と合流。レマン湖に面する公園で記念撮影し、レセプション会場に向かった。





【モントルー市の皆さんと記念撮影】



【スイスの民族楽器アルプホルンによる歓迎】



【熊谷市長スピーチ】



【向後議長スピーチ】



【友好関係確認書署名】



【両市の友好関係を記念しケーキ入刀】

レセプションでは、ベアリ市長から、今後も文化や青少年の交流、市民間の交流を続けていきたいことや、この難しい時代にこそ、姉妹都市交流が大切であるとの挨拶があった。熊谷市長は、20年が日本では成人の節目であることに触れ、還暦まで両市の友好関係を引き継げるよう努力したいと挨拶した。向後議長は、20年にわたって青少年交流などにより両市がつながりを深めてきたと述べ、水や自然が豊かなモントルー市のまちづくりを学び、今後も両市の友好が深まってほしいと挨拶した。その後、「友好関係確認書」に署名を行い、これまで青少年交流等で培ってきた友好関係を礎として、さらなる交流の発

展に努めることを両市長が確認した。レセプションの終わりには、20年間の友好関係を記念して両市の市章が入ったバースデイケーキが用意され、両市長らにより入刀のセレモニーが行われた。

日本国千葉市・スイス連邦モントルー市  
姉妹都市提携20周年に係る友好関係確認書



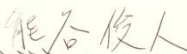
1996年5月28日、日本国千葉市とスイス連邦モントルー市は、関係を一層強固なものとするともに、両市の平和と繁栄に貢献することを目的として、姉妹都市関係を提携した。

この20年間、両市及び両市の市民は、経済、文化などの分野において交流を行い、提携の翌年に開始した青少年交流は、今年で19回目を迎えるなど、実り多い成果をあげ、相互理解と友好親善を深めてきた。

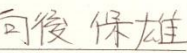
両市は、姉妹都市提携20周年に際し、その目的を再度確認し、これまで培われてきた成果を礎として、さらなる交流の発展に努めるものとする。

2016年10月9日にモントルー市において、日本語と英語により署名された確認書は、両版ともに等しく正文である。


千葉市

  
市長 熊谷 俊人

立会人

  
市議会議長 向後 保雄

モントルー市

  
市長 ロホン・ペーリ

立会人

  
副書記官 クリスタ・ビス

MONTREUX, SWITZERLAND AND CHIBA, JAPAN  
20TH ANNIVERSARY REAFFIRMATION OF FRIENDSHIP



WHEREAS, Commune of Montreux and City of Chiba were joined in a sister city agreement on 28 May 1996 with the intent to forge an ever increasingly enduring relationship, and make significant contributions to the peace and prosperity of both cities.

WHEREAS, over the past twenty years these cities and their citizens have engaged in economic, cultural, and other forms of exchange such as the youth exchange initiated the year following the initial sister city agreement; this year marks the nineteenth youth exchange program, and mutual understanding and friendship have been deepened through such fruitful achievements.

WHEREAS, we reaffirm the proclamation made twenty years ago, and endeavor to utilize our accomplishments thus far as the cornerstone for the development of future exchange.

Signed in Montreux City on this 9th day of October 2016, in English and Japanese. Both versions of this reaffirmation are equally authentic.

COMMUNE OF MONTREUX

  
Laurent WEHRLI  
Mayor

CITY OF CHIBA

  
Toshito KUMAGAI  
Mayor

Witnesses:

  
Krystin BISE  
General Deputy Secretary

  
Yasuo KOGO  
City Assembly Chairperson

《3日目》 10月10日（月）

午前中はモントルー市関係者からのプレゼンテーション及び意見交換を行った。

■モントルークリスマスマーケットについて  
（モントルークリスマスマーケットディレクター イヴ・コーナロ氏）



モントルー市における冬の一大イベントであるクリスマスマーケットについて、モントルークリスマスマーケットディレクターであるイヴ・コーナロ氏より説明を受けた。

【説明内容】

- モントルー市の観光シーズンは夏期であったため、観光客が減少する冬季にイベントを開催しようとしたのがきっかけで開始。以前は、スイスで最も有名な観光地の一つであるシヨン城でも冬季の観光客は5,000人程度だったが、2万人以上に増加した。
- 期間中の来客は50万人。スイス（100 km圏内）から60%、スイス（ドイツ語圏）から25%、外国人15%。対して、モントルー市の人口は2万6千人。なお、クリスマスマーケットを目的とした日本からのツアーも組まれている。
- 年間予算は約420万スイスフラン（4億5千万円）である。年間予算の約8%がプロモーション費。収益は2,100万スイスフラン（23億円）。
- 環境問題にも取り組んでおり、エネルギーは州内のグリーンエネルギーを使用している。また、ドリンクカップはデポジット制で再利用するなど、ごみの減量にも努めている。

■モントルー市について  
（モントルー市長 ロホン・ベリー氏）



続いて、ロホン・ベリーモントルー市長からモントルー市の地理、歴史、経済状況及び市の課題等についての説明を受けた。

【説明内容】

- モントルー市は標高の落差が大きく、多様化した景色を見ることができる。  
1850年頃からホテルが多く建設され、観光業が盛んとなった。
- 住民のうち、スイス人は52パーセントで残りの48パーセントは外国人。出身地は149か国にのぼる。国際色豊かと言われるフランス・パリでも住民の出身国数が113か国であることから、モントルー市民の多様性が伺える。



- 今年50周年を迎えたモントルージャズフェスティバルなどのイベントや国際会議が多く開催されている。テコンドーやフェンシングのヨーロッパ選手権も開催された。
- モントルー市には市外で働く市民も多いため、観光政策と市民が望む政策が一致しないこともある。コミュニケーションを大切にし、解決策を探していくことが重要。

プレゼンテーション後、ベアリ市長とともにヨーロッパ公園へ移動。姉妹都市提携時に千葉市が寄贈した雪見燈籠があり、10周年記念で訪問団が訪れた際には植樹を行っている。



【提携記念として千葉市が贈呈した雪見燈籠】



【公園内を散策】

昼食後、レマン湖を望む斜面を走るケーブルカーに乗車し、シヨン城へ向かった。シヨン城は9世紀に商人のための関所として造られ、13世紀までに現在の形となった。レマン湖に突き出た岩場の上に立っており、まるで湖の上に浮いているように見えることで有名な古城であり、年間を通じて、国内外から多くの観光客が訪れる。城内の案内は日本語を含む多言語での対応が可能。



【ケーブルカーにて移動】



【シヨン城視察】

夜は、レマン湖畔のヨットクラブを訪ね、過去の青少年交流事業の参加者と再会した。ヨットクラブではまず、世界的に有名なヨットチーム「アリンギ」のメンバーからプレゼンテーションを受けた。アリンギは海のないスイスにおいて、権威あるアメリカズカップでの優勝経験を持つ実力のあるチームである。その後、青少年交流の参加者とともに夕食をとりながら、それぞれの近況、千葉市でのホームステイや日本文化の体験などについて懇談を行った。





【市長から青少年へスピーチ】



【青少年交流事業参加者たちと懇談】

《4日目》 10月11日（火）

前日に引き続き、モントルー市関係者からのプレゼンテーション及び意見交換を行った。

#### ■観光事業について

（モントルーヴヴェイ観光局 コンベンションビューロー代表 ニコラ・パウール氏）



モントルーヴヴェイ観光局は、2001年にモントルー及び周辺市の観光局が合併して設立された組織である。モントルー市の主要産業である観光について、モントルーヴヴェイ観光局コンベンションビューロー代表であるニコラ・パウール氏からプレゼンテーションを受けた。

#### 【説明内容】

- モントルー市及びその周辺では、湖沿いのリゾートの景色や丘に広がるブドウ畑など、様々な景色を楽しむことができ、第一次世界大戦後から、ヨーロッパ貴族の社交の場であった。
- 現在でも、プレスや旅行代理店へのプロモーション活動も積極的に行っており、また24万人が訪れるモントルージャズフェスティバルをはじめとして様々なイベントが1年を通して開催されることから、多くの観光客が訪れている。
- 以前は地域ごとに観光局があったが、合併後は知名度の高いモントルーの名を前面に出すことが、周辺地域にとってメリットとなっている。
- 地域ごとに住民の考え方は異なっているが、合併に当たっては、レマン湖一帯は1つであるという意識が重要。

その後は、各種イベントの開催に使われるコンベンションセンター2m2cを視察し、ゼネラル・ディレクターであるレミー・クレギュ氏から説明を受けた。

#### 【説明内容】

- 1973年完成、1993年にリニューアルオープンした。

- 5階建てのコンベンションセンターで、50人程度の小規模な会議室から3,500人収容のホールまで様々な設備があるため、センター全体を使った大規模イベントから、個々の会議室を使った小さなイベントまでいかなるイベントも開催できる。
- どのイベントを開催するかを決定する際には①モントルー市全体にとってどれだけ直接の利益があるか、②対メディアでモントルー市の名声がどれだけ上がるか、③市民が誇りに思うか、楽しめるか、社会的意義があるかを基準として選定している。



同センターで最も大きいホールは、かつてモントルーに住んでいた著名な作曲家であるストラヴィンスキーの名を冠して「ストラヴィンスキーホール」と名付けられている。床を平らにして会議を開催したり、ステージを作ってコンサートを行ったり、様々な使用目的に応じて利用できるホールである。

視察後、空港のあるジュネーブ市内に移動。伝統あるヨットクラブである「ソシエテ・ノーティク・ドゥ・ジュネーブ」を訪問した。



ソシエテ・ノーティク・ドゥ・ジュネーブでは昼食をとりながら、ジュネーブを発着地点として開催される世界的なヨットレース「ボルドール・ミラボー」の社長であるルドルフ・ゴータイエ氏から同大会についてのプレゼンテーションを受けた。

#### 【説明内容】

- 同レースは参加者の25%以上がレマン湖以外から参加しており、湖で開催されるレースとしては最大級の国際性を誇っている。
- 通常、大規模なイベントを開催するには、訪問者のためのレストランなどを周辺に整備する必要があるが、ジュネーブには既に各種の施設が整っていたことが開催にあたってメリットとなった。
- 外国からの観光客受け入れには慣れているが、参加にあたり船を借りたいという要望に対応することは、海と異なりレンタル用の船がほとんどないために困難な状態であり、現在の課題となっている。

訪問後はジュネーブ空港へ向かい、市長ほか1名は引き続きロンドンオリンピック・パラリンピック大会におけるレガシーの視察のためにロンドンへ出発した。また、議長ほか2名は帰国の途についた。